

公益財団法人 福岡アジア都市研究所 都市政策資料室

URC資料室だより NO. 100

平成29年新春特大号

〒810-0001 福岡市中央区天神 1-10-1 福岡市役所北別館 6階

TEL : 092-733-5707 e-mail : library@urc.or.jp

福岡アジア都市研究所は、
福岡市を中心に産学官が協力して
設立した研究機関です

タイトルバック：琴性根氏 (BDI) 撮影

目次

- ◆はじめに 新年のごあいさつ・・・・・・・・・・・・・ 1
- ◆特別寄稿 都市政策資料室のおかげで……。・・・・・・・・ 2
- ◆URC資料室ニュース
 - ①アジア都市景観賞 2016 ポスター展開催中・・・・・・・・ 2
 - ②中島コンプリートしたってよ、その後・・・・・・・・ 3
 - ③蔵書点検のお礼・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- ◆URCニュース
 - ①柳研究主査「論文アワード2016」で優秀賞受賞・・・・ 3

◆はじめに 新年のごあいさつ 理事長 安浦寛人

みなさま、あけましておめでとうございます。新年のお喜びと、資料室だよりの100号を記念してご挨拶申し上げます。

昨年を振り返りますと、様々な出来事がありましたが、特に「グローバル化の進展」を身近に感じる出来事がたくさんありました。

遠く地球の裏側で繰り広げられるオリンピックの熱戦・日本選手の健闘ぶりに、同じ時刻で時間差無く、まさに現在進行形で一喜一憂したことに、全世界への情報伝達の同時性を実感しました。また、アメリカの大統領選挙の趨勢やイギリスのEU離脱の国民投票の状況が時々刻々と自国の出来事同様に報道され、株式市場や外為市場もそれらに敏感に反応していました。パナマ文書の流出により、タックスヘブンと呼ばれる国を経由した、主に課税回避措置と思われる資金の流れが白日の下に晒され、各国の企業・資産家等の資金が世界的規模で移動・展開しているという事実を再認識させられました。さらには、ピコ太郎という日本でもメジャーではなかったお笑い芸人が、その投稿映像をきっかけに瞬く間に全世界の有名人名となったことで、ネット社会における地球規模での情報の瞬時拡散性を実感しました。

このように、今や、グローバルな観点で物事を考えることが当然であり必然となった時代であることを踏まえ、当研究所では、「第3極の都市」「発展する都市、衰退する都市」という過去2年間の福岡のグローバルなポジションと成長戦略の研究に続き、今年度は、福岡市が目標としている「アジアのリーダー都市」へ向けて、今後どのような政策を強化していくべきかについての研究を進めています。「アジアのリーダー都市」になるためには、「グローバルな交流拠点都市」になる必要があります。「グローバルな交流拠点都市」とは、国境をはじめとする様々な境界を越えて行き来する、人、企業、

- ②第7回 IRBC 会議 2016 in スtockホルム・ウプサラ
の報告書ができました！・・・・・・・・・・・・・・ 3
- ③平成28年度 第2回第3回都市セミナー開催報告・・ 4
- ④平成28年度市民研究員活動報告・・・・・・・・・・・・ 4
- ⑤国際研修受け入れ報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- ◆福岡地域戦略推進協議会 (FDC) 事務局長 年頭所感・・ 6
- ◆URC メディア紹介情報・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
- ◆「資料速報 平成28年11～12月受入分」編集後記・・別添

モノ、資本、文化など、あらゆる要素がここに集結し、あるいはここを通り過ぎて交流する、そういう場となる必要があります。そして、ここを通ることで新しい付加価値が生まれ、それがイノベーションを引っ張り、新しい都市の発展のメカニズムになっていくものと考えています。このようにグローバルな都市間競争を勝ち抜いて福岡が発展するための方向性を調査研究しています。

また、昨年度の出来事で特に印象的だったのが、福岡にゆかりのある大隅良典東京工業大学栄誉教授がノーベル医学・生理学賞を受賞された際のコメントでした。受賞の経緯を語られた中で、「帰着点の確信なく進めた基礎研究が転換し結実した成果である」ことを述べられ、自然科学の分野での基礎研究の重要性を強調されたと報道されていました。物事の価値判断が目に見える形で短期的に見返りがあるかどうかに関わり、ある程度の時間をかけて醸成されなければ成果へと結びつかないような研究や調査が、無用で無駄なことのようには評価され、切り捨てられる風潮を、私も研究者のひとりとして危惧しています。

このことは、分野は異なりますが、私たちのこの福岡アジア都市研究所の調査研究事業のあり方にも示唆深いことだと感じました。これからも、様々な現場で政策的課題に直面している行政の職員や日々激烈な競争が繰り広げられる経済活動にさらされている企業・団体の方々には、なかなか難しい、長期的な視点と俯瞰的な視点に立った福岡市のあるべき姿を模索しながら、今後の施策展開の方向性について調査研究を進め、福岡の将来を見直すための材料となるような成果を出していきたいと考えていますので、皆様方の一層のご理解とご協力の程、よろしく願いいたします。

最後になりましたが、みなさま方にとって、本年がご健康で幸多い一年でありますことを祈念申し上げます。

◆100号記念 特別寄稿 都市政策資料室のおかげで…。

NPO法人アジア・エイジング・ビジネスセンター 上席研究員 佐々木喜美代

思い返せば、福岡都市科学研究所ができたころ、光吉先生を訪ねて出入りさせていただいていました。〈シティ情報ふくおか〉を作っていた時に、福岡市のマスタープランを福岡市民100人が、それぞれの分科会に分かれて討議をするというメンバーに参加し、それがきっかけでさまざまな方たちと知り合うことができたのです。1986年くらいのことでしょうか。光吉先生もそのお一人でした。それ以来勝手に、福岡都市科学研究所は身近な存在になりました。

そしてさらに身近な存在になったのが、〈シティ情報ふくおか〉を退職し、2001年から九州大学大学院の修士課程に入学し、「共創のまち・大名」という修士論文を書いて無事に博士課程に進んだのですが、この博士課程の3年間を研究所でお世話になったのです。主任研究員として、福岡市のコミュニティ研究をさせてもらいました。片方で、博士論文を書かなければなりません。論文のテーマは「福岡市の都市文化史」。マスタープランのメンバーに参加していた時に、福岡市のマスタープランが日本で初のものであり、北九州市と100万都市を争っていたこと、1961年に出版された福岡市のマスタープランが、実は工業都市を目指していたことは知っていました。でもその計画を大学や経済界、マスコミが反対し、1966年には計画見直しがあったことを、どうしても論文の始まりにしたかったのです。

自分自身、情報誌を作りながら、福岡の財産は“人”だなあと感じてきました。企業の名前



でもなく、会社の肩書でもなく、その人自身が持っている魅力を発揮できる町、それが福岡。来るものは拒まず、去る者は追わない福岡。エンターテインメントが生まれるところであり、人がここに住みたいと思わせる町。そんな福岡になぜなったのか？それが博士論文のテーマでした。



それらを紐解く資料が、都市政策資料室にはありました。1961年からのマスタープランはもちろん、天神の大きな発展につながる都心会や発展会の歴史資料、福岡の町を音楽都市に育てたKBC九州朝日放送やRKB毎日放送の社史などなど、まさに福岡の町の宝箱です。探している資料が分からなければ、創立当初から資料室の司書をやられている山崎さんに聞けば分かります。

おかげで無事に論文を書いて博士となりました。それが2006年3月のこと。4月からは福岡市市長室広報課の課長に就任、民間採用で5年任期の公務員です。そのときも資料室に通っていました。5年が過ぎてそのあと1年間、福岡アジア都市研究所となった研究所で、今度は超高齢社会の調査・研究を行うことになったのです。それが今でも続いている私の研究テーマです。

今でも、各地から福岡の取材や調査研究に来られるライターや研究者をここに連れてきます。そして福岡の講釈をたれます。福岡の魅力を語るとともに、「どうだ！この資料室すごいだろ！」と自慢します。失くしたら二度と手に入らない資料があるこの資料室は福岡の財産だと思います。

写真出典：佐々木喜美代氏ご提供

◆URC資料室ニュース

①アジア都市景観賞 2016 ポスター展 開催中！

10月29日金曜日と30日土曜日の両日で、今年で7回目を迎えた「アジア都市景観賞」の授賞式を中国 寧夏回族自治区 銀川市(2014年受賞都市)にて開催しました。

今年は応募総数41案件のうち7カ国15件が受賞し、中国・韓国・ミャンマー・ベトナム・バングラデシュと国内は愛媛県松山市・石川県小松市・大分県玖珠町・北海道東川町の受賞関係者、並びに中国国内・外国諸国の招待客など約500名超の参加者が銀川に集い、地元の方々の歓迎ムードが盛り上がる中、複数のテレビや新聞でも取り上げられるなど、大盛況のうちに終わることができました。

その後、11月21日から12月5日までアクロス福岡3階こくさいひろばでこれまで受賞した日本の都市を中心にポスター展を行い、12月1日には、唐寅主任研究員が、ハビ

タットひろばで「アジア都市景観賞の歩み」を講演しました。



今回は、都市政策資料室入り口入ってすぐの展示架に、2016年受賞都市のポスターを日本語の解説と並べて展示しています。合わせて、中国・銀川市での授賞式の写真をA3のクリアファイルにまとめており、また、唐寅主任研究員の講演資料も展示しています。

ご興味のある方は是非ご覧ください。

写真出典：URC撮影(山崎三枝 司書)

②中島コンプリートしたってよ、その後

ポケモン GO と地域活性化との関係性について考える第3回ナレッジコミュニティ「中島コンプリートしたってよ」は多くの反響があり、その後さまざまところから招聘いただきました。

一般社団法人ブローバンド推進協議会では「行動変容」をテーマに、ゲームによる地域活性化のメカニズムについてお話させていただき、福岡大学では、12月6日火曜日に、共創チャレンジセミナー事業で「人は本当にポケモンGOで動くのか。－エンターテインメントと地域活性化の関連性を探る－」と題して(URC 的にはナレッジコミュニティ番外編)、「ブランディング」をテーマに本当に人の行動を変えるのは何なのかを学生さんと一緒に考えるセミナーを福岡大学地域交流サロンで開きました。地域課題の解決と ICT の可能性などについて、学生中心の約 30 名の参加者は、真剣に話を聴かれています。

③蔵書点検のお礼

蔵書点検のため資料室は2週間休室させていただきましたが、皆様のご理解とご協力のおかげで無事終了できましたので、御礼申し上げます。より正確な所蔵情報を提供できるようになりました。

◆URCニュース

①柳基憲研究主査「論文アワード2016」で優秀賞受賞をしました!

当研究所の柳研究主査が執筆した「ICTを活用した外国人材の活躍支援と地方創生に向けた取組み - CIP

(Creative Interchange Platform) の活動事例からの考察 -」の報告論文が、地方シンクタンク協議会が主催する「論文アワード2016～「テーマ：地方創生」」において見事「優秀賞」を受賞しました。地方シンクタンク協議会の会員機関の研究者から応募のあった18件の論文から、惜しくも総務大臣賞は逃しましたが、優秀賞に選ばれたものです(対象は、総務大臣賞1論文、優秀賞2論文)。表彰式は、11月11日に富山県民会館にて総務省の猿渡知之大臣官房審議官(地域情報化担当)、地方シンクタンク協議会の金井萬造代表幹事など関係者多数出席の中で行われました。

公益財団法人NIRA総合研究開発機構の神田玲子理事・研究調査部長による講評では、2014年の優秀賞論文「グローバル人材活躍型都市形成に向けた外国人留学生の就職支援に関する調査研究-外国人留学生の就職支援に向けたプラットフォームの構築-」を深化させ、実行段階に進めて論文にまとめられた価値は非常に大きいという評価が与えられました。なかでも、CIPの活動に関して、留学生による自己PRの動画を使っの社会実験によって当初想定し

ました。URC 第3回ナレッジコミュニティに関する話も、少しだけ紹介しました。学生が地域のことを考える良いきっかけになったと思います。元 URC 常務理事である梶原城南区長も参加されました。

2月24日金曜日には、愛媛県松山市で開催されるサイバーセキュリティシンポジウム道後2017にて、情報モラルの観点を踏まえた、ゲームと地域活性化の課題や解決策についても紹介する予定です。

地域の活性化にエンターテインメントの視点を入れた取り組みは全国でも行われていますので、福岡は人気ゲーム「妖怪ウォッチ」を制作するレベルファイブをはじめ、ゲーム企業が集積する地域ですので、今後研究テーマとしても取り扱っていきたいところです。

(中島賢一調整係長)



ていなかった評価軸が発見できたこと、また、多くの人によるネットワークの構築に成功していることの2点が高く評価され、留学生という若者を軸にした多文化共生のモデルケースに成りうる取組みであると賞賛されました。

今回の受賞は、都市政策シンクタンクとしての当研究所の評価も大いに高めるとともに、今後の研究職員のモチベーションの向上にもつながるものとなりました。

写真 「論文アワード2016」表彰式の様子

写真出典：地方シンクタンク協議会ご提供

(常務理事 鹿毛尚美)

②第7回IRBC会議2016inストックホルム・ウプサラの報告書ができました。

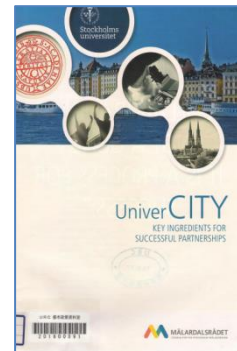
2016年10月12日～14日の3日間、福岡市がメンバー地域として参加するIRBC (International Regions Benchmarking Consortium/国際地域ベンチマーク協議

会) の第7回本会議がスウェーデンのストックホルム市とウプサラ市で開催されました。今回の会議テーマは「UniverCITY Partnerships/大学都市連携」であり、

福岡地域から九州大学、九州産業大学、九州大学共進化社会システム創成拠点、九州先端科学技術研究所 (ISIT)、福岡地域戦略推進協議会 (Fukuoka D. C.)、当研究所が参加しました。カンファレンスには以下の方々が登壇し、ファシリテーターPeter Woodward 氏の進行によるテーブル毎の会場ディスカッション (総勢約 80 名) も行われ、活発な意見交換が行われました。

この度、本会議を主催した IRBC ストックホルム事務局より報告書 (英文) が発行されましたのでご報告いたします。

ご興味のある方は、都市政策資料室でプリントアウトして所蔵しておりますので、是非一読ください。
<http://urc.or.jp/irbc2016report>



(山田美里 研究スタッフ)

③平成28年度 第2回都市セミナー「21世紀のまちづくりの展望」及び、第3回都市セミナー「福岡のグローバル・ネットワーク」を開催しました。

第2回都市セミナーを11月14日月曜日に、第3回都市セミナーを12月14日火曜日に福岡アジア美術館8階「あじびホール」にて開催しました。



第2回都市セミナー「21世紀のまちづくりの展望」では、まず当研究所の特別

研究員でもある西南学院大学・野田順康教授が「世界の都市化・都市政策の潮流」と題し、「第3回国連人間居住会議 (ハビタットⅢ)」において採択された、都市化と人間居住に係る新たな国際的な取組み方針「ニューアーバンアジェンダ」の主要論点や、昨年の国連総会で報告された「都市と国土計画に係る国際ガイドライン」において、「コンパクトで暮らしやすいまち」として福岡市が紹介された内容などについて講演しました。

続いて、国連ハビタット福岡本部長の深澤良信氏より、国連ハビタットのプロジェクトやその取組み内容について、ご講演頂きました。

そして、国連ハビタット福岡本部との包括連携協定を締結した福岡地域戦略推進協議会 (FDC) の取組みについて、FDCフェローの榎本拓真氏が報告しました。

第3回都市セミナー「福岡のグローバル・ネットワーク」では、まずURCの久保首席主任研究員が、平成28年度総合研究の中間報告として、「福岡のグローバル・ネットワークの実態とポテンシャル」と題し、発表しました。

次に、㈱NCBリサーチ&コンサルティング・国際コンサル室の佐々木治彦氏が、「上海から見た九州・福岡 ～地域と共に歩んだ軌跡～」と題し、中国におけるビジネスのご経験談や企業が海外進出する際の今後の展望などについてご講演頂きました。



続いて、ローカル・ナレッジ・プラットフォーム代表社員の天野宏欣氏が、「福岡が上海の富を活用する切り口」と題し、日本企業の中国進出の現状や中国・上海の最新のビジネス・経済動向などについてご講演頂きました。

第2回・第3回ともに、最後の会場の皆様とのディスカッション・質疑応答において、非常に有意義な意見交換の場となりましたし、セミナー終了後も名刺交換や情報交換が続き、参加者の皆様方の意識の高さを感じられました。

写真出典：URC撮影 (山本美香 主任研究員)

④平成28年度 市民研究員活動報告 その1：中間報告会を開催しました！

11月10日木曜日に、本年度の市民研究員による7月からの研究成果を発表する『中間報告会』を実施しました。市民研究員として委嘱をして以降、10月まで8回の定例会を実施し、本年度の事業テーマ『さらなるグローバル化

時代に向けての福岡市のまちづくり』に即したテーマを各自が定め、調査研究を進めてきました。



中間報告会当日は、市民研究員OB・OG を中心に15名の方々にお集まりいただき、6 名の研究員がそれぞれ10 分程度のプレゼンを行いました。

市民研究員からは「研究員OB・OGの方からいただいたアドバイスやご指摘を参考に、今後の研究に活かしていきたい」、「研究の方向性や取組姿勢を再確認できた」といった声が上がりました。

今後は、年度末の最終発表会及び市への提言に向け、引き続き活動を進めていきます。

なお、当日発表をおこなった研究員のテーマは以下のとおりです。

【研究発表テーマ】(発表順)

①. 「多文化共生社会構築に向けた福岡市民の意識向上を目指す政策に関する研究～「多文化共生アドバイザー」制度導入の提案～」 … 岡田 憲二郎

②. 「福岡市における多文化多言語共生社会の仕組み作りと人材育成」 … 古賀 尚子

③. 「グローバルシティにおける都市機能としてのコミュニティとメディアの関係」 … サーズ 恵美子

④. 「福岡のブランド力作りに関する研究ゲートウェイシティからデスティネーションへ」 … 鄒 艶

⑤. 「世界中の起業家を集め、世界の創業特区をめざす政策に関する研究～福岡ーシリコンバレースタートアップス交流(事業)の提案～」 … 古澤 秀和

⑥. 「隠れた資源のマーケットデザイン～「女性起業家」と「女性フリーランス」のマッチメイキング～」 … 矢野裕樹

その2: オープントップバスに試乗しました!



11月24日木曜日は「外国人観光客目線でオープントップバスを試乗・検証してみよう」をテーマに福岡市のオープントップバスの体

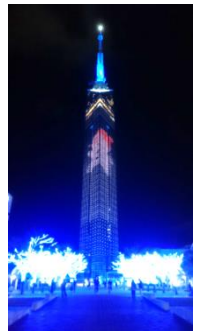
験試乗(福岡きらめきコース)を実施しました。

研究員の大半はオープントップバス初体験であり、興味津々な中での試乗となりました。

暖冬の日が続く中、残念ながら当日は計ったように冷え込んでしまい、帰路で通った都市高速では「何かの苦行じゃないか」といった声が出るほどの寒さでした。

今回の試乗で各研究員はそれぞれに気付いた点があり、この試乗の成果として、取りまとめて最終報告時に提言とする予定です。

写真出典: URC撮影(夏井圭介 主任研究員)



⑤11・12月の国際視察研修受け入れ報告!

台湾・韓国・インドネシアからの視察団(9団体225名)が、11月から12月にかけて来福されました。

・台湾中原大学視察団は、福岡市の水素ステーションを訪問し、下水処理の過程で発生するバイオガスを利用して車を走らせる先進的な再生水施設を視察されました。

・12月に多数来福した韓国からの視察団は、超高齢社会に向けて解決策を探るために、福岡市の福祉関連施設を視察されました。日本の介護保険制度に対するノウハウと課題、解決策を学ぶなど、高齢社会分野に興味を示しながら、「福岡にある民間の福祉関連施設にも尋ねてみたい」などのコメントも上がっていました。

・昨年に続き2回目となる「さくらサイエンスプラン」の視察団を受け入れました。11月14日～18日にかけて、インドネシア大学の他7校、11名の学生と2名の先生が大学・福祉施設・防災施設等のワークショップに参加されました。



福岡市国際視察研修事業を通して、福岡市の認知度が高まり、今後ますますの友好や自国での各施策に寄与することを期待します。

写真出典: URC 撮影 (李英雄 国際視察研修担当)

◆福岡地域戦略推進協議会 (FDC) 事務局長 年頭所感

今回の100号・新春特大号の発行にあたり、URCと事務所のフロアーを共有し、ともに福岡の発展を目指すパートナーとして連携しながら事業を進めるなど、密接な関係にあ

る福岡地域戦略推進協議会(FDC)さんから、新年のごあいさつをいただきましたので、以下にご紹介させていただきます。



福岡地域戦略推進協議会 (FDC) 事務局長 年頭所感

2017年の年頭にあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

昨年は福岡地域戦略推進協議会 (FDC) の活動に対し、ご理解と格別のご支援を賜り厚く御礼を申し上げます。

昨年は誰もが容易に想像し得ないビックニュースが世界中を駆け巡りました。その中でも、英国の欧州連合 (EU) 離脱、米国大統領選挙でトランプ氏の勝利は、今後の世界の不透明感を象徴する出来事でした。既に世界の金融・資本市場に大きな影響を与えていますが、世界経済の減速、格差の拡大と相まって、世界各国、各界のリーダーたちは難しい舵取りが求められています。

また、熊本地震を忘れるわけには行きません。二度にわたる大きな揺れは被災地に甚大な被害をもたらし、未だ多くの方がその影響から脱することができていません。FDC もいち早く支援に乗り出した福岡市に寄り添い、迅速な情報提供に努めましたが、広域連携、官民連携による大震災への対応については、大きな課題を突きつけられました。

今我々の生きている世界は、刻一刻と変化を続けています。現在や過去をベースに容易に想像のできる未来は存在せず、日々世界のどこかでイノベーションが起こり、新たに生み出される製品やサービスが世界の常識や生活そのものを劇的に変えていきます。これらのイノベーションは、大震災を始めとする災害への対応や様々な社会課題の解決にも資するものでもあります。今後の予測できない未来に対応し、現在の政策課題に対応していくためには、常に新しいイノベーションをキャッチアップし、それを受け入れ社会に実装していくことができる施策立案と実施が求められます。

FDC は、2011年の設立から今年で6年が経ちます。2017年からは、これまで掲げてきた「2020年にGRP+2.8兆円、雇用+6万人、人口+7万人」というKPIを達成し、「東アジアのビジネスハブ」となるための総仕上げの3か年をスタートさせます。「事業化支援」、「広域展開」、「地域のグローバル化」を3本の柱とし、産学官民の強みを活かして最先端の技術開発やビジネスモデルを次々と生み出して行くとともに、社会実装につなげていきます。

実行するための抜本的な組織改革にも既に着手しています。これまでの基幹事業であった部会の改廃を行い、個別プロジェクトや事業コンソーシアム組成を中心とした運用体制の構築(Think→Doへの移行)を行います。また、新たな取り組みを柔軟に行うことができるよう事務局の充実を図るとともに、協議会会員の事業化支援を強化するべく新規事業創出促進を行うための機能を新たに位置づけます。この機能を活用し、スタートアップインキュベーションとビジネスディベロップメントを連携させたオープンイノベーション機能を新たに設置することで、他の地域にはないFDCの強みを最大限に活かした地域活性化及び地域産業形成を行って参ります。

2017年は「加速化」の年と位置付け、新たな「価値」を可視化して皆様にお届けするため、職員一同精一杯の努力を行ってまいります。一層のご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2017年元旦 福岡地域戦略推進協議会事務局長 石丸修平

◆URC メディア紹介情報ー最近 2 か月の情報を中心にー

◎新聞

(2016/12/31 朝日新聞 朝刊 1p)

折々のことば市民研究員 OB 藤浩志さんのことばが紹介される。

(2016/12/27 毎日新聞 地方版 23p)

吉村県政の検証・2017 年知事選: 上 人口問題 減少率 3.9% 全国 6 位 移住者増に活路模索を/山形
URC OB 山本匡毅さんのコメントが掲載される。

(2016/12/26 西日本新聞 朝刊 23p)

都市のシニア世代移住促進へ初会合 専門家 12 人で委員会 小川全夫特別研究員が委員長を務め、あいさつする。

(2016/12/15 福岡市政だより 5p)

九州大学箱崎キャンパス跡地活用「FUKUOKA SMART EAST」プロジェクトを進めます
「都市革新フォーラム」が開催され、安浦寛人理事長のコメントが紹介される。

(2016/12/14 西日本新聞 朝刊 23p)

「福岡からの海外進出増を」国際競争力強化セミナー 福岡市 第 3 回都市セミナーの開催報告

(2016/12/13 南日本新聞 朝刊 8p)

[ようこそ]建物の価値は人が生み出す/吉原住宅(福岡市)の吉原勝己社長 市民研究員 OB 吉原勝己さんが紹介される。

(2016/12/10 西日本新聞 夕刊 1p)

育って天神ベンチャー 西鉄が格安オフィス提供 減る乗客 街の活性化狙う URC の開業率ランキングが引用される

(2016/12/8 北國新聞 朝刊 4p)

福岡市の取り組み学ぶ 金沢駅西開発協議会 URC FDC OB 後藤太一氏が FDC の設立経緯や戦略などを紹介
(☆印=以下同じ)

(2016/12/8 建設工業新聞)

60 人が参加、福岡の事例学ぶ/金沢駅西開発協が交流会 ☆

(2016/12/7 愛媛新聞 9p)

2016 年末記者ノート(1)銀天街L字再開発計画 松山市 年内に基本計画策定 街区ごと順次着手方針
アジア都市景観賞関連記事(*印=以下同じ)

(2016/12/1 秋田魁新聞 朝刊 22p)

五城目町の魅力、言葉から探る 秋田美大ワークショップ報告展 きょう 1 日から、付箋 2000 枚ずらり
市民研究員 OB 藤浩志さんが担当するトークイベントの開催予告

(2016/12/1 西日本新聞 朝刊 23p)

福岡県/隣国ニュース=上海など海外との関係学ぶセミナー 13 日、福岡市/筑豊
第 3 回都市セミナーの開催予告(@印=以下同じ)

(2016/11/30 鹿児島建設新聞)

みちづくしin鹿児島 370 人が親睦深める 道守九州会議
URC 榑木武前理事長が代表世話人を務める道守九州会議主催イベントの開催報告

(2016/11/29 南日本新聞 朝刊 8p)

物件の DIY、取り組み学ぶ/課鹿児島市でシンポジウム 市民研究員 OB 吉原勝己さんが講演したシンポジウムの開催報告

(2016/11/19 京都新聞 朝刊 10p)

アートスクエア「吉原治良の挑戦」展ほか 市民研究員 OB 藤浩志さんがパネリストとして参加するフォーラムの開催予告

(2016/11/19 西日本新聞 朝刊 25p)

福岡と海外 つなかりは 来月読み解くセミナー 博多区 参加者を募集 @

(2016/11/18 西日本新聞 朝刊 28p)

九州経済 九経調の未来セミナー第 4 弾 小川全夫特別研究員が講演するセミナーの開催予告

(2016/11/15 福岡市政だより 11p)

URC(福岡アジア都市研究所)都市セミナー「福岡のグローバル・ネットワーク」 @

(2016/11/15 福岡市政だより 4p)

私の NEXT チャレンジ 福岡と釜山の研究 NEXT
昨年度第 3 回目のミニセミナーの講師を務めたハナ・シェパードさんが紹介される。

(2016/11/12 西日本新聞 朝刊 27p)

九大箱崎地区跡地「次世代の街」探る 福岡市で都市革新フォーラム 400 人が参加 意見を交換
安浦寛人理事長がパネリストとして参加し、提言が紹介される。(○印=以下同じ)

(2016/11/12 読売新聞 朝刊 31p)

九大箱崎跡地の活要考える 成長や課題 都市革新フォーラム ○

(2016/11/11 秋田魁新聞 朝刊 25p)

博多駅前・大規模陥没 地層傾斜、掘削前に判明 設計変更後の施工検証へ
URC 榑木武前理事長のコメントが紹介される。(★印=以下同じ)

(2016/11/11 愛媛新聞 朝刊 4p)

博多駅前・陥没 天井部の設計変更 地下鉄工事 掘削前 ★

(2016/11/11 京都新聞 朝刊 31p)

地層傾斜判明で天井高設計変更 博多陥没 ★

(2016/11/11 佐賀新聞 朝刊 24p)

福岡道路陥没 地層傾斜で設計変更 トンネル施工「検証必要」 ★

(2016/11/11 四国新聞 朝刊 20p)

地層傾斜で設計変更 避難勧告 14 日にも解除 博多道路陥没 ★

(2016/11/11 信濃毎日新聞 朝刊 34p)

博多駅前の道路陥没 地層傾斜で設計変更 トンネル天井低く ★

(2016/11/11 下野新聞 2p)

博多陥没/地層傾斜で設計変更/避難勧告 14 日にも解除 ★

(2016/11/11 中国新聞 朝刊 29p)

博多陥没 天井高の設計を変更 岩盤傾斜 掘削前に判明 ★

(2016/11/11 東奥日報 朝刊 22p)

博多陥没 岩盤軟弱部から水か 14 日にも避難勧告解除 ★

(2016/11/9 北海道建設新聞 10p)

東川小など核とした環境整備がアジア都市景観賞を受賞 *

(2016/11/8 住宅新報 2p)

国交省「不特法改正」3つの焦点セミナーで意見募る 業界の声を反映へ

市民研究員 OB 吉原勝己さんがゲストスピーカーを務めセミナーの開催予告

(2016/11/8 西日本新聞 朝刊 22p)

マンション1階交流拠点に 中央区清川の地区40年物件 住民参加で改修

市民研究員 OB 吉原勝己さんが手掛ける老朽ビル改修事業が紹介される。

(2016/11/7 北海道建設新聞 10p)

東川町が「アジア都市景観賞」*東川小と地域交流センター*大雪山系生かしたデザイン評価 *

(2016/11/5 朝日新聞 朝刊 25p)

古い物件を自ら「リノベ」見学などの催し、7 日から県内 7 市町で 解体・撤去作業や宿泊体験 市民研究員 OB 吉原勝己さんが理事長を務める NPO 法人「福岡ビルストック研究会」が主催するイベントの開催予告(◆印=以下同じ)

(2016/11/3 西日本新聞 朝刊 27p)

リノベ物件見て歩き 県内 7 市町で 参加者募集 ◆

(2016/11/1 東亜日報)

良才川が「今年のアジア都市景観賞」に選ばれる *

(2016/11/1 福岡市政だより 14p)

URC(福岡アジア都市研究所)都市セミナー「21 世紀のまちづくり展望」第 2 回都市セミナーの開催予告

◎雑誌

(2016/12/21 Nasse 2017 年 1 月号 No.237)

9p ワクドキ 大人の社会学 Vol.17 皆で目指そう!『FUKUOKA NEXT』福岡サイコー福岡ナンバー1!!

チャレンジしやすい環境が整っている!に URC の開業率が引用される。

(2016/11/21 AERA)

第 2 特集 AERA 九州経済福岡が愛される理由 地方税が唯一増加した福岡市 その理由は?

伸びる唯一の地方都市 URC のデータが引用される。

官ではなく民の街 URC OG 佐々木喜美代さんのコメントが紹介される。

誰もが福岡っ子に 市民研究員 OB 吉原勝己さんのコメントが紹介される。

(2016/11/16 道守通信 秋号)

14p 『海外道事情 ソウル駅高架が「歩く道」として再生「ソウル駅 7017 プロジェクト」』を柳基憲研究主査が執筆

◎ラジオ

(2016/12/1 KBC ラジオ パオ〜ン)

15:00~15:15 中島賢一調整係長が生出演 ポケモン GO など研究者の視点で語る。

(2016/11~12 毎週金曜日 ローカルラジオ放送こみてん 18:00~18:25)

スポガで Ready Bowl!! 市民研究員 OB 吉田勝さんがパーソナリティを務める。